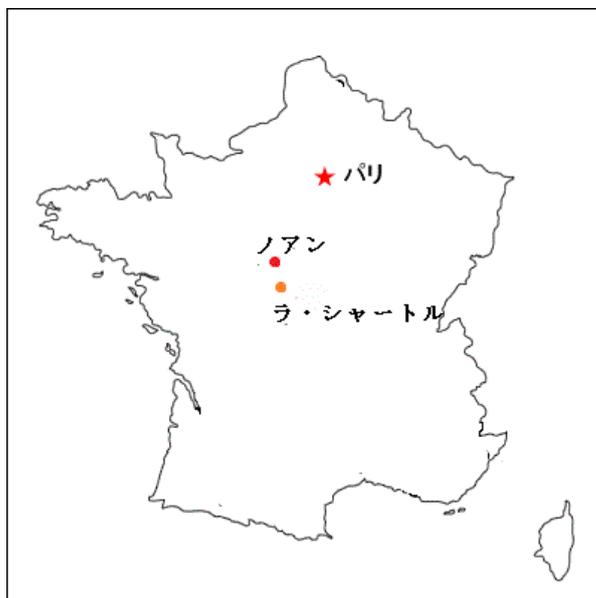


第1回ノアンフェスティバルインショパンピアノコンクールで

特別賞を受賞された方々の体験レポート

《ノアンについて》



パリ←-----(距離約 300km、車で約 3 時間)-----ノアン←---(距離 8.4km、車で約 10 分)---ラ・シャートル

体験レポート：2016年ノアン賞受賞 松田彩香さん

現在イヴ・アンリ先生の下、勉強をしている松田彩香と申します。

この様にして私の文章をホームページに掲載していただく機会を頂戴いたしまして、光栄に存じます。

さて、私が文章を書いている所以はノアンフェスティバルにあるのですが、それは私の人生を一変させてしまう程私にとって衝撃的な体験でした。

というのもノアンに滞在した一週間に機に、私は留学を決意したからです。

連日の内容のぎっしりと詰まったマスタークラスを受講出来たことは、ショパンの精神を掘り下げる為にもアンリ先生の音楽を学ぶ為にも、非常に貴重な体験でありました。

また毎夜世界最高水準の演奏家による演奏を間近で聴くことにより、様々な角度から彼等を観察研究する事が出来たのも極めて勉強になったと感じております。

更にはマスタークラス受講生としてショパンの過ごした(一般には公開していない)様々な場所に案内していただき、彼の人生の一側面を身をもって垣間見たのは何事にも代えられないノアン賞最大の副賞ではないかと思えます。当に百聞は一見に如かずとはこの事であります。

この様に貴重な体験をさせていただくことが出来たのは、ひとえにノアンフェスティバル及びにユーロピアノ株式会社様のお陰であります。

この場をお借りして改めまして御礼申し上げます。ありがとうございました。

松田彩香



体験レポート：2016年パスポート賞受賞 鬼頭久美子さん

パリのオーステルリッツ駅から南に2時間ほど列車に乗ってシャトール駅に到着。そこから更に車で1時間ほど田園風景の中を走ると、そこはまるでタイムスリップしたような、昔のままの建物が残る可愛らしい町が見えてきます。そこがノアン村...ショパンとジョルジュ・サンドが過ごした村です。一旦そちらを通り越して、目的地はノアン村からほど近いラ・シャートル。ペンション風のこじんまりとしたホテルに着き、先に現地入りしていた通訳の大倉先生とお会いしました。今から始まる5日間の打ち合わせです。ラ・シャートルの劇場でのアンリ先生マスタークラスや、ショパン研究家が様々なテーマでレクチャーする講座について、また、ノアン村で毎晩開催されるコンサートについて説明を受け、町を案内して頂きました。

楽しみで仕方がなかった一週間のスタートです。何故そんなに楽しみなのかと言うと、コンサート出演者がとても魅力的！ダン・タイソンや、ちょうどショパンコンクールの年でしたので入賞したばかりのシャルル・リシャール＝アムラン、エリック・リュウ、そして2003年に引退した奇人天才ピアニスト、フランソワ＝ルネ・デュシャープルなど！

初日の演目は俳優アラン・カレイ氏とデュシャープルの朗読&ピアノでした。フランス語の朗読なので完全には理解できませんが、それでも圧倒的な存在感、表現力に加え、驚くほど自由で完璧にコントロールされたピアノとの素晴らしいコラボレーションに鳥肌が立ち、大興奮。これは一体何なんだ！と、大きな衝撃を受けたことを今でも鮮明に思い出します。翌日からは、美味しいクロワッサンとコーヒーで朝食を取ったらすぐにお散歩がてら町へ出かけ、ノアン賞を受賞された松田彩香さんが奮闘するマスタークラスを聴講したり、ショパンの作曲法や手についての講座に参加したり、合間にチーズを買ったり、ランチには美味しいレストランでフレンチを堪能したりと充実した日中を過ごし、更に夕食後にみんなでピアノリサイタルに出かけるという音楽三昧の日々を過ごしました。こんなに毎晩ピアノ曲ばかり聴くという機会もなかなかありません。弾く人によってこうも違うのかと。音楽表現の幅広さ、自由さを知りました。また、演出も工夫されており、毎日驚きの連続！ジョアン・ピリスのサプライズ登場や、週末の夜は夜間散歩というものがあり「何だろう？」と思っていたのですが参加してみると、アッと驚く仕掛け盛り沢山、そして特筆すべきはショパンも見たであろう満天の星空。それはもう他に何も要らないと思うほど美しく、言葉を失いました。

ここで過ごした時間は、まだまだこれで語り尽くせるものではありません。実はノアンパスポート賞を頂いた当初は、スケジュール的に参加が難しいかなと考えておりましたが、無理をしてでも参加させて頂いて本当に良かったです。最後になりましたが、このような大変貴重な経験を与えて下さった株式会社ユーロピアノ様、現地でお世話になった大倉先生、白川様、石井さん、松田さん、ノアンフェスティバル関係者様、アンリ先生、そして渡仏への理解を示してくれた家族に心より感謝の意を表したいと思います。

鬼頭久美子

体験レポート：2016年ショパン・ナイト受賞 佐原光さん

今回はショパン・ナイト賞を受賞された佐原光さんによるレポートです。

ショパン・ナイトとは10/16のショパンの命日を偲び、ノアンのアルス城で開催されている演奏会のことです。

日本人では今回レポートを書いていた佐原さん以外には、過去實川風さんも参加されていました。

今回も当コンクールの特別賞の1つとして、優秀な成績を収められた方に授与されます。

今回、夢のように素晴らしいショパン・ナイトで演奏する機会を与えて下さりましたアンリ先生をはじめ、ユーロピアノの皆様にご心より深く感謝申し上げます。

私は、フランスにずっと憧れていました。フランスへ行く事、フランス・ノアンで演奏する事が私の憧れ・夢でした。

“ノアン”というショパンにとって特別な場所で演奏する事ができて、凄く嬉しくてとても楽しかったです。

ノアンは体調が悪かったショパンが、唯一元気に過ごして心身共に充実した特別な土地でもあります。

ノアンは、とても自然が豊かで食べ物も本当に美味しかったです。

日本では秋・秋晴れの時期ですが、私が居た間ノアンは、お天気にも恵まれ、雲一つない晴天、とても綺麗な青々とした青空が果てしなく続いていました。まるで初夏の様でした。

私は、10月16日・ショパンの命日にちなみアルス城で演奏しました。

お城は、古城で長い歴史も感じられ、思っていたよりずっとずっとスケールも大きく威厳もあり高貴な建物でした。

お庭も広々と延々に続いていました。夜になりライトアップされると、一段とゴージャスでした。

お城で演奏するのは人生で初めてです。

ご来場の聴いて下さっている皆様は、女性はドレスアップされ、男性はタキシード姿でした。

私は聴衆の皆様との距離も身近でした。私は自然に高貴な気分になりました。

ピアノの音色はとてもよく響くお城で、ホールとはまた違った空気が流れています。

フランス・ノアンのからっとした空気の中に独特な響きがしました。

私は幸運なことにプレイエルピアノで演奏する事ができました。

1846年と1955年のプレイエルピアノです。1955年のピアノで「アンダンテスピアナートと華麗なる大ポロネーズ」、
「舟歌」、「ソナタ第2番・葬送」、アンコール曲「3つのエコセーズ」を演奏しました。

1846年のプレイエルピアノでアンコール曲「ノクターン Op.48-1」を演奏しました。

1曲目の「アンダンテスピアナートと華麗なる大ポロネーズ」が終わり、『ブラボー！！』と聞こえました。

私の心は凄く弾みました。私の心もほぐれ、「舟歌」へ移る事ができました。

「ソナタ第2番」の演奏が終わると直ぐに、会場いっばいに響き渡る沢山の拍手を頂きました。

再び『ブラボー』が聞こえ、私の励みとなりました。

これからも再び、フランス・ノアンで演奏できる様、より一層更に成長し充実した姿・演奏を表現できる様、聴いて頂ける様に頑張ります。

1846年のプレイエルで演奏する事は難しかったです。

どんなピアノかわくわくし、いざ弾いてみると打鍵のタッチが強い為か音は伸びず全く響きませんでした。その為、現代ピアノよりも様々なタッチを要求されました。

演奏していて、これがプレイエルの難しさ、特徴なのかと感じました。

本番はその難しさにドキドキしましたが、指やタッチをコントロールし演奏しました。

皆様から大きな拍手を沢山頂きました。今思うともっともっとプレイエルピアノを弾いていたかったです。

プレイエルピアノを演奏する事で、ショパンの音楽をより理解する事ができ、ショパンが求めていた音楽へと追求していく事ができると感じます。

そして、私はショパンが過ごしたノアンの館にも行く事ができました。

ショパンの家・ショパンの勉強ぶりやジョルジュ・サンドとの暮らしを見る事は滅多にありません。

見るもの全てに目を奪われました。幸いなことにノアンの館に置いてあるピアノをフランス人のガイドさんに『ピアノを弾いてもいいよ』と勧めて下さりました。

私は「ノクターン Op. 48-1」を演奏し皆様から温かな拍手も頂けた事も嬉しかったです。

この場所でショパンが生活し、曲が作られていった過程やショパンの様子を想像すると、時空を超えてまるでその時代に行った様に感じます。

このノアンで、ノアン・ショパン・ピアノ・演奏を磨き学び、又学問を通して一気に習得する事もできました。

私がノアンで過ごした日々は私の大切な大切な宝物です。

ショパンの音楽・ピアノをもっともっと魅力ある演奏ができる様、これからも頑張ります。

佐原 光

